

# 日本環境学会 第47回研究発表会 全体プログラム

※ 報告者の発表日時、演題などについては、「一般報告プログラム」をご確認下さい。

■ 1日目 7月3日(土) Zoom ホスト入室 9:30~

※【 】内は発表番号

	A会場 (ZoomのURL やパス コードはメールでご案内)	B会場 (ZoomのURL やパス コードはメールでご案内)	C会場 (ZoomのURL やパス コードはメールでご案内)
開始時刻	エネルギー①	廃棄物・都市問題①	環境情報／ 環境教育・環境哲学①
10:00	【A-1】	【B-1】	【C-1】
10:15	【A-2】	【B-2】	【C-2】
10:30	【A-3】	【B-3】	【C-3】
10:45	休憩 (15分間)		
	エネルギー②	廃棄物・都市問題②	環境教育②／ 環境経済・環境政策①
11:00	【A-4】	【B-4】	【C-4】
11:15	【A-5】	【B-5】	【C-5】
11:30	【A-6】	【B-6】	【C-6】
11:45 	11:50~12:40 休憩・昼食 (60分間)		11:50~12:40 休憩中に「旧年度」幹事会 (別会場…C会場では無い)
12:45 	ポスター発表【P-1】 (B会場)		ポスター発表【P-2】 (C会場)
13:15	休憩 (15分間)		
13:30   15:30	ミニ シンポジウム (A会場)		

■ 2日目 7月4日(日) Zoom ホスト入室 9:30~

※【 】内は発表番号

	<b>A会場</b> (ZoomのURLやパス コードはメールでご案内)	<b>B会場</b> (ZoomのURLやパス コードはメールでご案内)	<b>C会場</b> (ZoomのURLやパス コードはメールでご案内)
開始時刻	震災・災害／ 環境経済・環境政策②	環境教育・環境哲学③	生態系・生物多様性
10:00	【A-7】	【B-7】	【C-7】
10:15	【A-8】	【B-8】	【C-8】
10:30	【A-9】	【B-9】	【C-9】
10:45	休憩 (15分間)		
	大気汚染／土壌・水質①	環境教育・環境哲学④／ 環境政策③	市民科学／土壌・水質②
11:00	【A-10】	【B-10】	【C-10】
11:15	【A-11】	【B-11】	【C-11】
11:30	【A-12】	【B-12】	【C-12】
11:45	【A-13】	【B-13】	【C-13】
12:00 	休憩・昼食 (60分間)		12:05~12:55 休憩中に「新年度」幹事会 (別会場…C会場では無い)
13:00   15:00	自主企画セッション 【K-1】 (A会場)	自主企画セッション 【K-2】 (B会場)	

# 一般報告プログラム

1日目 7月3日(土)

## < A会場 >

【座長：小倉亜紗美】

- 10:00 A-1 EV（電気自動車）と再エネ電源普及による CO<sub>2</sub> 排出削減効果のシミュレーション  
○近江貴治（久留米大学商学部）・歌川 学（産業技術総合研究所）
- 10:15 A-2 2050年 CO<sub>2</sub> 排出ゼロに向けた地域の技術普及対策評価  
歌川 学（産業技術総合研究所）
- 10:30 A-3 変動性再エネ電源導入による 2040年の電力需給と出力抑制の考察  
○竹濱朝美（立命館大学産業社会学部）・歌川 学（産業技術総合研究所）

【座長：近江貴治】

- 11:00 A-4 電気自動車，太陽光パネル，蓄電池を用いた一般家庭の電力収支  
○小倉亜紗美（呉工業高等専門学校）
- 11:15 A-5 大規模離島の電力システムにおける蓄電池導入効果の一検討  
○今中政輝・豊田舜介・栗本宗明・杉本重幸・加藤丈佳（名古屋大学）
- 11:30 A-6 「核のごみ」処分建設問題の争点  
上園昌武（北海学園大学経済学部）

## < B会場 >

【座長：村瀬憲昭】

- 10:00 B-1 プラスチックごみ削減政策の課題と今後の方向性  
北川秀樹（龍谷大学政策学部）
- 10:15 B-2 市町村における廃プラスチックの分別収集・処理の現状と課題の考察  
—京都市廃プラスチックフローの解析を通して—  
馬 建（龍谷大学政策学研究科）
- 10:30 B-3 相模湾における海岸マイクロプラスチックに関する研究  
○咸 泳植・渡邊華音（東京都市大学環境学部）

【座長：北川秀樹】

- 11:00 B-4 市街地用水路ごみ調査に基づく，海ごみ対策の提案 ～岡山市内用水路調査を基に～  
○塩飽敏史（公益財団法人水島地域環境再生財団）・磯部 作（公益財団法人水島地域環境再生財団，元日本福祉大学）・柴本健太郎（日本コカ・コーラ株式会社）・市川雅洋（内外地図株式会社）
- 11:15 B-5 インドネシアにおけるごみ銀行の仕組みとその持続的運営に関する考察  
村瀬憲昭（摂南大学）
- 11:30 B-6 マレーシアにおける自動車リユース・リサイクルの現状と課題  
浅妻 裕（北海学園大学経済学部）

## 1日目

### <C会場>

【座長：津野佑規】

- 10:00 C-1 環境汚染と情報公開 ―水銀汚染に係る国際環境協力の事例から  
吉田充夫（一般社団法人国際環境協力ネットワーク／独立行政法人国際協力機構）
- 10:15 C-2 環境課題の系統発生的分類  
森谷昭一（森谷工房環境教育部）
- 10:30 C-3 科学と数値化の思想  
柿沼美穂（国立環境研究所）

【座長：吉田充夫】

- 11:00 C-4 コロナ禍における大学のESD実践活動の課題と今後の可能性  
○萩原 豪（高崎商科大学商学部）・豊田正明（高崎商科大学商学部）
- 11:15 C-5 新型コロナウイルス感染症に起因した在宅授業における遠隔環境教育プログラムの開発  
○津野佑規（福井農林高校，新潟大学大学院自然科学研究科）・長谷川英夫（新潟大学自然科学系），水島智史（若狭東高校）・石井 巧（笠松中学校）・村田一晟（鯖江高校）
- 11:30 C-6 イタリアのアグリツーリズム農家への品質認証制度の特徴，および先行諸国との比較  
佐藤 輝（フェリス女学院大学国際交流学部）

## 2日目 7月4日（日）

### <A会場>

【座長：上園昌武】

- 10:00 A-7 原発事故影響の広域性とストック汚染 ―宮城県を事例に―  
嶋原敦子（東北大学）
- 10:15 A-8 福島原発事故における被害回復と集団訴訟  
除本理史（大阪市立大学大学院経営学研究科）
- 10:30 A-9 景観形成とオーセンティシティ  
大森賢人（株式会社ミカミ）

【座長：前田良之】

- 11:00 A-10 東京都におけるPM2.5測定局未設置区について  
○中山榮子（昭和女子大学院・生活機構）・木村百花（昭和女子大学・環境デザイン）
- 11:15 A-11 複合化する光化学オキシダント公害 一次総括報告  
○木村健一郎（杉並大気汚染測定連絡会）・権上かおる（環境カウンセラー）
- 11:30 A-12 イタイイタイ病発生源対策50年史  
畑 明郎（元大阪市立大学大学院）
- 11:45 A-13 リニア中央新幹線建設と環境破壊  
畑 明郎（元大阪市立大学）

## 2日目

### <B会場>

【座長：高野拓樹】

- 10:00 B-7 日本の地元企業のSDGs取り組み普及を目指した自治体の取り組み  
— 企業のさらなる取り組みに向けた方策  
渡未 絢（一般財団法人日本品質保証機構）
- 10:15 B-8 SDGsに関する新聞記事の内容分析：読売新聞と朝日新聞の比較より  
○桜井 良（立命館大学政策科学部）・上原拓郎（立命館大学政策科学部）・吉岡泰亮（立命館大学）
- 10:30 B-9 アジェンダ21に基づく持続可能な開発のための教育(ESD)の目標を追加したSDGsの提案  
天谷和夫（元群馬大学）

【座長：桜井 良】

- 11:00 B-10 食品ロスに関する学生アンケート調査から  
飛田 満（目白大学社会学部）
- 11:15 B-11 環境と防災をテーマにした女子中高生理系進路選択プログラムに関する研究  
○高野拓樹（京都光華女子大学キャリア形成学部）・杉本悠子（同学学長戦略推進部）
- 11:30 B-12 三重大学キャリア支援システムの開発  
長屋祐一（三重大学大学院生物資源学研究科）
- 11:45 B-13 気候変動・適応・安全保障化：日本の対応を事例に  
横田匡紀（東京理科大学教養教育研究院）

### <C会場>

【座長：多羅尾光徳】

- 10:00 C-7 西表島林縁域における非繁殖期のカンムリワシの行動圏と林内採餌場環境  
○神谷 颯（東海大学大学院人間環境学研究科）・水谷 晃（Island Ecosystem Research）・山本誉士（明治大学MIMS）・藤野裕弘（東海大学教養学部）・河野裕美（IER）
- 10:15 C-8 三重県のブリ類漁獲量予測モデルへのスパースモデリングの適用  
○大木里夏（三重大学大学院生物資源学研究科）・久野正博（三重県水産研究所）・山田二久次（三重大学大学院生物資源学研究科）
- 10:30 C-9 小規模な土地改良区の持続的経営について  
○長屋祐一・伊藤良栄（三重大学大学院生物資源学研究科）

【座長：山田二久次】

- 11:00 C-10 コロナ禍における市民科学プロジェクトに見られる行動変容  
○岸本慧大（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）・小堀洋美（東京都市大学）
- 11:15 C-11 多摩川と野川下流域における洪水攪乱前後の外来植物群落の比較：  
市民科学を事例として  
○咸 泳植（東京都市大学環境学部）・小堀洋美（東京都市大学/（一社）生物多様性アカデミー）・岸本慧大（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）

11:30 C-12 国内外の地下水の水質汚濁に係る環境基準の比較研究

○咸 泳植・大里彩乃（東京都市大学環境学部）

11:45 C-13 細菌による 2,4-diclorolophenol の生物濃縮と細胞表面の疎水性の関係

○田中雄大（東京農工大）・多羅尾光徳（東京農工大）

**ポスター発表** コアタイム 1日目 12:45～13:15（15:00 まで画面共有）

<B会場>

P-1 地域理解を深めるための実践的環境教育の試み ～小・中学生を対象に～

○小櫻慶吾・藤野裕弘（東海大学大学院人間環境学研究科）

<C会場>

P-2 丹沢山地における降水の化学成分濃度変動

○倉元隆之・成田カンナ（東海大学教養学部）

**自主企画セッション** 2日目 13:00～15:00

<A会場>

K-1 気候非常事態宣言と脱炭素社会の構築

代表：歌川 学（産業技術総合研究所）

<B会場>

K-2 持続可能な社会に向けた企業活動の支援と評価

—企業による SDGs 活動の展開と見えてきた課題—

代表：渡未 絢（（一財）日本品質保証機構）

## 日本環境学会 第47回研究発表会 公開ミニシンポジウム

### 「大学における社会的実践力の育成 ～地域連携の活用を含めた事例紹介～」

国際社会において持続可能な開発の概念が注目され始めた1980年代以降、大学には持続可能な社会の構築をけん引する期待が常に寄せられてきた。大学がその役割を模索するなか、省エネやごみ減量といった学内の環境管理活動から、次第に教育・研究という大学の主要活動のなかで持続可能性と結びつくテーマが取り上げられることが増え、さらに近年は、教育や研究の過程や成果を実社会とつなげ、持続可能な社会づくりへ直接貢献、参画する試みが広がっている。気候変動や新型コロナ感染症をはじめとする危機的な課題が次々と立ちはだかる今、大学が、社会の課題を解決しつつ、社会づくりに参画する人々を育て、社会の発展をリードしていく存在となることの重要性は、ますます高まっている。

全国7キャンパスに約3万人の学生を擁する東海大学は、1942年の設立以来「人類の幸福と平和の実現に向かって、明日の歴史づくりを担う人材の育成」を教育理念とし、専門的な知識や技術の教授にとどまらず「自らの考えをもち、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく自主性や創造性」を育む重要性を謳ってきた。そのディプロマ・ポリシーには4つの「社会的実践力（自ら考える力、集い力、挑み力、成し遂げ力）」が掲げられ、地域社会と連携した教育・研究活動も幅広く展開されている。本シンポジウムでは、東海大学における取組をふたつの切り口から紹介したうえで、地域と連携しながら持続可能な社会の構築をけん引する大学教育のあり方について議論を深めたい。

日 時：2021年7月3日（土）13:30～15:30（予定）

場 所：オンライン（日本環境学会第47回研究発表会A会場）

主 催：日本環境学会

共 催：東海大学スチューデントアチーブメントセンター、湘南里川づくりみんなの会

後 援：NPO法人東海大学地域環境ネットワーク

参加対象：学会会員に限らずどなたでも（事前申し込み必要）

参加費：無料

申込方法：日本環境学会第47回大会実行委員会（[jaes2021@jaes.sakura.ne.jp](mailto:jaes2021@jaes.sakura.ne.jp)）へ「お名前・ご所属・連絡先（メールアドレス）」を送付してください

申込〆切：2021年6月30日（水）

<プログラム> 司会：日比慶久（東海大学スチューデントアチーブメントセンター）

13:30～ 開会・趣旨説明

13:40～ 講演（事例発表：質疑応答含む）

発表1：全学的正課教育と課外自主活動を通じた学生の社会的実践力育成

～東海大学パブリック・アチーブメント型教育とチャレンジプロジェクト～

二ノ宮リムさち・池谷美衣子（東海大学スチューデントアチーブメントセンター）

発表2：地域連携の持続可能なしくみづくり ～組織化事例紹介を中心に～

藤野裕弘他（湘南里川づくりみんなの会）

15:00～ 意見交換